

博物館

ニュース

楽しく

見て

学ぶ

Museum
News

徳島県立
博物館

No.91

鳴門のセアカゴケグモ



図1、メス成体；図2、メスの未成体；図3、防砂ネットに張られた巣；図4、発泡スチロールの裏にいたメス；図5、鳴門市大手海岸

2010年の夏、鳴門市大手海岸^{おおて かいがん}で特定外来生物のセアカゴケグモが確認されました。徳島県で初めて、四国では2例目の発見でした。その後、2011年には鳴門北インターでも見ついています。強い毒性^{どくせい}をもち、咬まれると激しい痛み^{はげ}と嘔吐^{おうと}などの症状をとまいません。人々の生活圏内にも適応するため、このクモに関する情報を正確に理解することが必要です。

企画展「エイリアン・スピーシーズ—知られざる外来生物の姿—」では、外来生物による在来生物や人々の暮らしへの影響など、さまざまな外来生物についての理解を深めます。

このクモについて
もっと知りたいね



(動物担当：山田量崇)

かど っ 門付けのこと

庄武 憲子

はじめに

私は、ここ2年余り、多くの人から教えをいただきながら、徳島に特徴的な門付け「三番叟まわし」「えびすまわし」についての調査にたずさわらせてもらっています。

調査を進める中で門付けについて感じたことを少し紹介させていただきます。

門付けとは

「三番叟まわし」「えびすまわし」について調べているうちに、門付けの姿があまり見られなくなった現在、その本来の意味が多くの場合、忘れられがちではないかと気づきました。恥ずかしながら私自身も、よく理解していなかったと思います。『日本民俗学大辞典』(吉川弘文館)には「門付け 家々を一軒ずつ祝福してまわる芸能者、およびその芸能をいう。本来訪れる宗教的意味合いから、時期が定まっていた。(以下略)」とあります。県内で見られた門付けについて、過去の記録をざっと見渡すと、三番叟・えびすまわしの他にも、多数の門付けがあったことが確認できます。ただその内容は、芸能者や芸能にだけ焦点を当てたものに偏っていて、祝福とか宗教的意味合いを言及したものは少ないのです。

「三番叟まわし」「えびすまわし」調査

「三番叟まわし」は、千歳、翁、三番叟、えびすの4体の木偶を、「えびすまわし」は、えびすの木偶1体を用いる門付けです。江戸時代から行われていたことが記録されています。途絶えそうになっていたところを、阿波木偶箱まわし保存会のメンバーが受け継ぎ、現在も継承しています(図1)。かつて徳島県内にはこれらの芸人が多数おり、徳島だけではなく、四国あるいは中国地方や大阪府、和歌山県まで門付けしていました。平成23年および24年度に、聞き取りやアンケート調査によって、迎える側から見た「三番叟まわし」を中心とする



図1 現在の「三番叟まわし」の様子
(写真提供：阿波木偶箱まわし保存会)

門付けの実態調査に取り組みました。

その結果、終戦(1945年)までは、四国の広い地域で「三番叟まわし」もしくは「えびすまわし」を中心とした門付けが迎えられていたものの、その後、急速にその姿が見られなくなったことが確認できました。一方、徳島県、愛媛県の一部地域では、根強く「三番叟まわし」の門付けを迎え続けていた所があることもわかりました。

「三番叟まわし」を支えてきたもの

近年まで(あるいは現在も)、「三番叟まわし」を迎えたとする家々では、この門付けを単なる芸能ではなく、宗教的意味合いを持つ「神事」と捉える特徴がうかがえます。「三番叟まわし」に、まず家の荒神を拝んでもらい、御幣を受け取ります。家によっては水神や苗床を拝んでもらいます。愛媛県西条市や徳島県阿南市では、「三番叟まわし」の来訪が途絶えた後でも、受けた御幣を荒神棚や床の間に残している家がありました(図2、3)。また迎える意味について、徳島県三好市、東みよし町などで「神の使いでありがたい」「人形になでてもらったり踏んでももらったりするのは元気になれる」などの回答がありました。「三番叟まわし」は決して一方的に家々を訪れていたわけではなく、迎える人々に「三番叟まわし」という神の使いに、祝福・祈禱をしてもらう要望があって成り立ち、続いてきたものと思います。



図2 愛媛県西条市に残されていた「三番叟まわし」の御幣



図3 徳島県阿南市で正月の床の間にまつられている「三番叟まわし」の御幣(中央下)

民家に残されていたお札

少し話がそれますが、門付けの調査にたずさわってほどなく、阿波市のあるお宅から、納屋に残されていた古い神札や護符を多数、御寄贈いただく機会に恵まれました。江戸時代の終わり頃から昭和の初め頃まで、その家が様々な社寺から受けたものをまとめて保管し続けていたものです。

それら1点1点を整理していく内に、「式三番叟御祈祷之札」と記されたものが複数含まれていることに気づきました(図4)。氏神や檀那寺の札と一緒に包まれており、この家が「三番叟まわし」を複数年に渡って迎え、祈祷をしてもらっていたことを示すものと思います。

また他に興味深い札も見つけました。猿に牛馬の絵が刷られており、「安全守」と記されています(図5)。

猿ひき(猿まわし)の門付け

先述の調査においては、少数ですが「猿ひき(猿まわし)」という門付けを迎えたとする例がありました。徳島県では鳴門市、小松島市、阿南市、阿波市、美馬市、三好市、東みよ



図4 「式三番叟御祈祷之札」
中に「長久円満息災延命 勤所」と刷られた札が入っている



図5 猿と牛馬の絵が刷られた札

し町、石井町、松茂町、海陽町、愛媛県では八幡浜市、砥部町、西条市、香川県では観音寺市、善通寺市、坂出市、東かがわ市などです。

猿ひき(猿まわし)は、猿を飼い馴らしてわざを覚えさせ、芸人と猿との共同で行う「神事」および芸能とされています。もともと猿を馬の守り神とする信仰に基づいた厩祈祷として始まったといえます。阿波市のお宅に残されていた猿と牛馬の札は、猿ひき(猿まわし)が、牛馬の安全を祈祷していたこと示すものではないかと考えています。

おわりに

門付けは神事芸能であり、この「神事」の部分を見落とすと本質が見えなくなることは、すでに何人かの研究者によって指摘されています。2年間、門付けを実際に迎えてきた多くの人から話をうかがうことによって、ようやく私もその意味が実感できるようになりました。「三番叟まわし」「えびすまわし」の門付けは今も息づいています。それは、門付けの本来の意味を失わずに保ち続けた人たちがいたからだと思います。この点を心に留めて、本年度も門付けについての調査に臨みたいと考えています。

(民俗担当)



平成25年度企画展

エイリアン・スピーシーズ



土曜日・日曜日・
夏休み期間中、
高校生以下は無料だよ

—知られざる外来生物の姿—

私たちの回りではセアカゴケグモやアルゼンチンアリ、メリケンソウなどさまざまな外来生物が新たに確認されています。その中には人に危害を加えたり、人間の活動や他の生きものに大きな影響を及ぼすものもいて、外来種問題としてニュースに取り上げられることもあります。それらの外来生物についてその生態を学び、他の生き物や私たちの生活に対する影響を紹介し、外来生物とつきあっていくためにはどうしたら良いか考えてみます。夏休みの自由研究の課題にぴったりですので、ぜひご覧ください。

会期 平成25年
7月19日(金)～9月1日(日)

会場 博物館企画展示室(1階)

時間 9:30～17:00

休館日 毎週月曜日(8/12は開館)

観覧料 一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
※20名以上の団体は2割引
※土・日・夏休みは小学生・中学生・高校生無料
※障がい者及びその介助者1名は無料
※高齢者(65歳以上)は半額

展示解説

第1回目：7月21日(日)

第2回目：8月24日(土)

○時間 14:00～15:00

○会場 企画展示室(1階)

○講師 当館学芸員

○備考 企画展の観覧料が必要です。



川を埋め尽くす謎の植物の正体は？



カメがたくさんいて楽しいね!! えっ違うの？

【記念講演会】

セアカゴケグモを学ぼう

—被害にあわないために—

7月21日(日) 10:00～12:00

○場所 博物館講座室

○講師 西川嘉朗氏(追手門学院大学名誉教授)

○対象 小学生から一般

○定員 40名

※申し込みは不要です。



道端にきれいな花が咲いているけど…



急増中!

特定外来生物 ナガエツルノゲイトウ

先日、水路の中にナガエツルノゲイトウらしき植物があるので、確認してほしいという依頼がありました。この植物、水路をふさぐなどの被害があることから、全国で問題となっており、外来生物法によって特定外来生物にも指定されています。この機会に、環境省の外来生物対策室に詳しくお話を伺うことにしました。

Q 特定外来生物ってなんですか？

A 外来生物法^{*1}に基づき、日本の生態系や人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす、又はそのおそれがあるとして指定されている外来生物^{*2}のことです。原則として輸入や飼育等(飼育、栽培、保管及び運搬)、譲り渡し等、野外に放つことなどが禁止され、違反すると個人の場合3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金となります。ちなみに、ナガエツルノゲイトウの場合、種子と茎と根が特定外来生物とされています。ですから種子のついていない花だけや葉だけならば、移動しても違法にはなりません。

Q ナガエツルノゲイトウは、勝手に駆除しても良いのですか？

A 駆除は、誰でも自由に行うことができますが、特定外来生物をきたまま他の場所に運ぶことは、法律で規制されています。駆除した特定外来生物は、原則、その場で枯死させたくらうえで処分するか、ごみ収集業者に回収に来てもらってください。その場で枯死させる場合にも、種子や茎などが周辺に飛び散ってしまわないよ

うに、覆い^{おお}をかけたり、袋に詰めるなどしてください。

Q 知らずにナガエツルノゲイトウを持ち帰り、あとから特定外来生物とわかったらどうすればいいのですか？

A 二重にビニール袋に入れ、しっかりくちをしぼるなどしたうえで、速やかに近くのゴミ集積所に出してください。

以上、特定外来生物について調べてみました。この他にも、ナルトサワギク、ボタンウキクサ、アライグマ、ウシガエル、オオクチバス、セアカゴケグモなど、

105種類が特定外来生物に指定されていますので、皆さんご注意ください。

(植物担当：茨木 靖)

※1 正式名称：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律

※2 外来生物法では、日本に本来の生息地や生育地を持たず、海外から導入される生物を「外来生物」としています。



図1 ナガエツルノゲイトウ。陸上に生えたもの。



図2 水面に広がるナガエツルノゲイトウ。

廻 在 録

当館には、明治期から昭和戦後期にかけて活躍した郷土史家近藤辰郎氏旧蔵の原稿・蔵書等 342 点と採集石器 128 点が収蔵されています。一部については、企画展『郷土の発見—小杉榎邨と郷土史研究の曙—』(2008 年)などで展示したことがあります。

近藤氏関係資料には、『廻在録』と総称されている江戸時代後期の阿波の地誌の一部にあたる写本が含まれています。『名東郡再調帳』(1842 [天保 13] 年)、『勝浦郡』・『勝浦郡 坤』(1844 年)、『板野郡』二・三がそうです。いずれも近藤氏が筆写したもので、『名東郡再調帳』以外は、1933 (昭和 8) 年に徳島県庁所蔵のものを写したことが分かっています。これらと同内容の資料は他にはないようですし、現存する『廻在録』の稿本・写本はたいへん少ないので、珍しいものといっておよいでしょう。

『廻在録』の作成にあたったのは、攻古会という歴史研究グループで、国学者野口年長、神

職早雲高古、礼法家吉井永蔵(直道)、絵師守住貫魚らがメンバーでした。しかし、この事業は完成せずに終わってしまいました。

近藤氏が書写した資料などによると、『廻在録』は郡単位で編纂され、村ごとに地名、寺社、古城跡、名勝、旧跡等について調査・検討の上で記述されていることが知られます。また、石造物や寺社の宝物等の略図もみられることから、詳細な現地調査をもとにしたことがうかがえます。図の作成については、守住貫魚がとくに貢献したものであろうかと思われます。

このことから、未完成だったものの、『廻在録』には、19 世紀における阿波の歴史・地理研究や当時の社会の実情が知られる情報が豊富に含まれていたといえます。したがって、近藤氏が残した『廻在録』写本群は地域史の資料として意義深いものです。今後、活用が進むことを願っています。

(歴史担当：長谷川賢二)



古い本から、むかしの徳島の様子がわかるんだね



図1 近藤氏が筆写した『廻在録』写本群

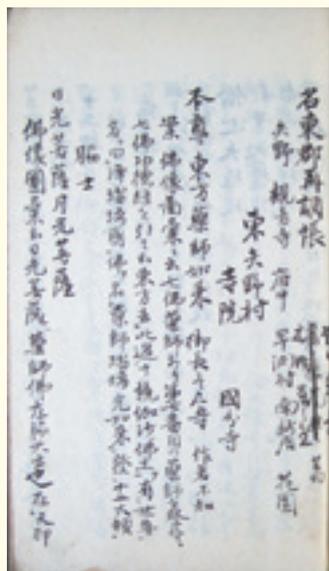


図2 名東郡再調帳



図3 勝浦郡 坤

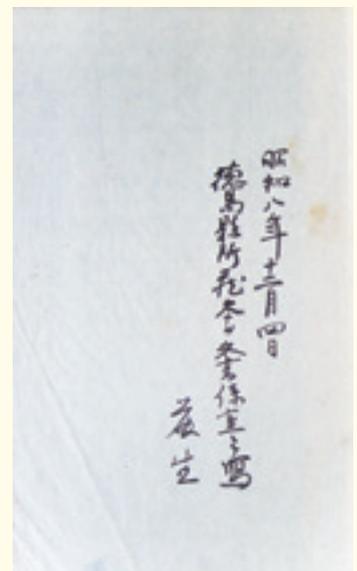


図4 板野郡 二



徳島城の御殿について部屋と ふすま絵の資料があると聞きましたが…

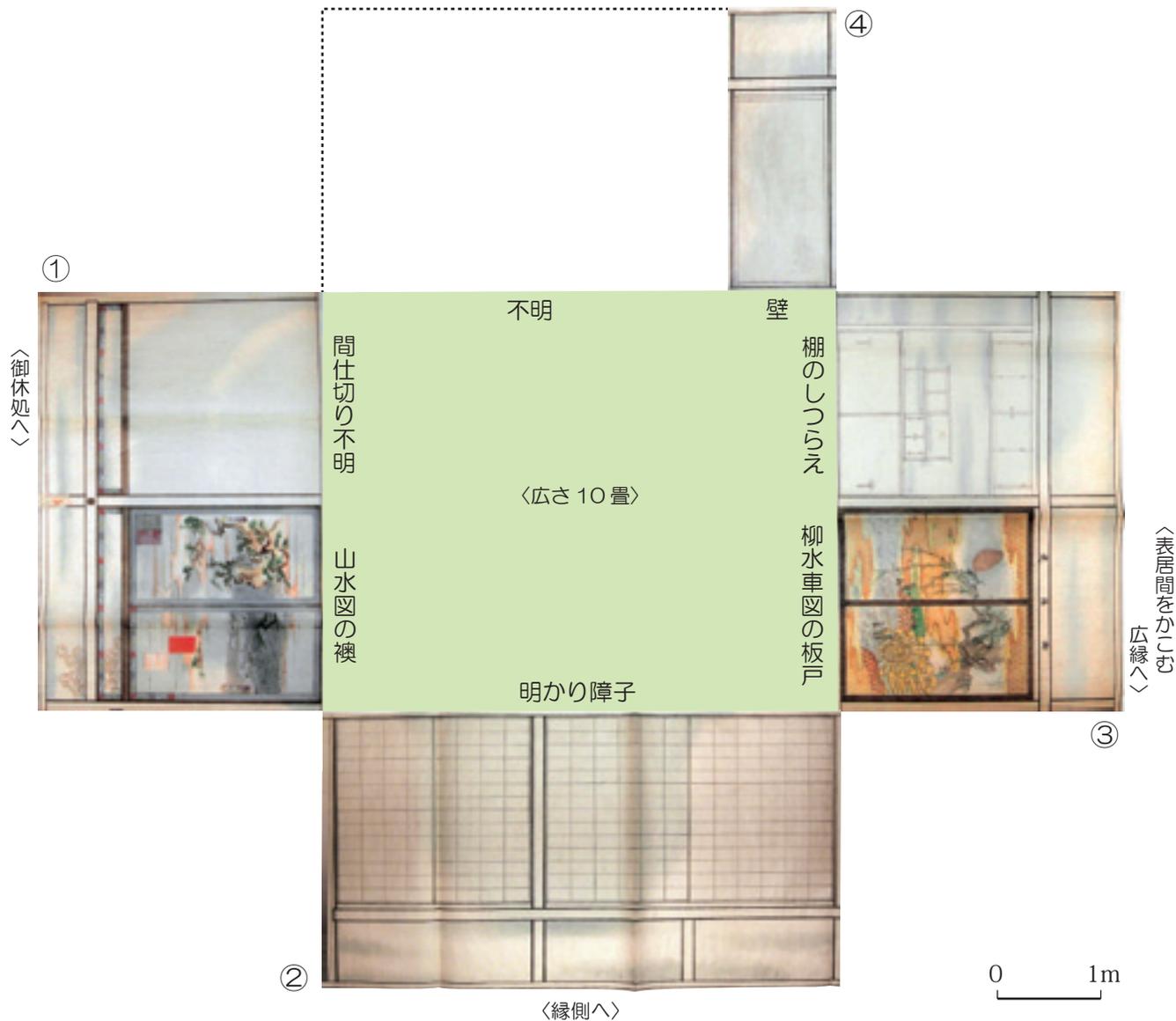
阿波藩主蜂須賀家の居城である徳島城には、藩主の一族が暮らす西丸御殿がありました。この建物は火災にあい、12代藩主斉昌の隠居にあわせて、天保14年(1843)に建て直されました。

西丸御殿は現存しないため、部屋の様子や障壁画について、詳細がわかりませんでした。しかし近年、幕末期に藩の御用絵師であった守住貫魚(1809 - 1892)の遺品から、この建物の襖や板戸の下絵が見つかりました。遺品は当

館が所蔵しています。縮小された画面ですが、城の御殿について、障壁画をふくめて部屋の様子がわかる貴重な資料です。

例として、宇治之間とよばれる部屋をあげておきます。実際の下絵は①-②-③-④の順に繋がりますが、部屋の四方にあわせて分けて表示します。ほかに梅之間・表居間・西部屋の下絵も残されていますが、くわしくは機会をあらためて紹介します。

(美術工芸担当：大橋俊雄)



徳島城西丸御殿宇治之間 展開図

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
園瀬川一魚とり名人塾 佐那河内ネイチャー センター共催	第1回(初級編)タモ網で魚とり	7月20日(土)	10:00~12:00	要	小学生から一般(40)	現地集合
	第2回(中級編)エビタモで魚とり	7月28日(日)	10:00~12:00	要	小学4年生から一般(30)	現地集合
	第3回(上級編)投網・シャクリで魚とり	8月17日(土)	10:00~14:00	要	小学4年生から一般(30)	現地集合
	第4回(達人編)川干しで魚とり	8月31日(土)	9:30~12:30	要	小学生から一般(30)	現地集合
野外生きものかんさつ	セミの羽化かんさつ	7月20日(土)	19:00~21:00	要	小学生から一般(20)	
	漂着物を探そう!	8月4日(日)	9:00~17:00	要	小学生から一般(30)	貸切バス
	夏の昆虫ウォッチング	8月24日(土)	10:00~12:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
	初めての植物かんさつ(秋編)	9月21日(土)	13:30~15:00	不要	一般(15)	
ミクロの世界	電子顕微鏡で化石を見よう!①	9月23日(月)	13:30~15:30	要	小学4年生から一般(10)	
	藍の葉っぱで遊ぼう	7月15日(月)	13:00~15:00	不要	小学生から一般(200)	
みどりの工作隊	草や木を使った環境にやさしい紙作り	8月17日(土)	10:00~15:00	要	小学生から一般(30)	
	化石のレプリカをつくろう	7月21日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(20)	材料費100円(大学生一般)
たのしい地学体験教室	貝化石を調べよう①(観察と採集)(高知県)[②とセット]	8月10日(土)	13:00~15:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
	貝化石を調べよう②(標本づくり)(博物館)[①とセット]	8月11日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(30)	
ワクワクむかし体験	火おこし体験	7月28日(日)	9:30~11:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円(大学生一般)
ミュージアムトーク	災害と考古学	9月1日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	阿波の遠洋漁業	7月28日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海陽町立博物館
	いにしえの阿波と朱	8月25日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	海陽町立博物館
企画展・特別陳列関連行事	夏の外来植物を探そう	7月7日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
	セアカゴケグモを学ぼう-被害にあわないために-	7月21日(日)	10:00~12:00	不要	小学生から一般(40)	博物館講座室
	企画展「エイリアン・スピーシーズ-知られざる外来生物の姿-」展示解説	7月21日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般(50)	観覧料必要
部門展示関連行事	企画展「エイリアン・スピーシーズ-知られざる外来生物の姿-」展示解説	8月24日(土)	14:00~15:00	不要	小学生から一般(50)	観覧料必要
	部門展示「林業用具コレクション」展示解説	9月23日(月)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	祝日無料
博物館スペシャル	特別講演会「博物館で学ぶ人類の歴史」	8月1日(木)	13:00~14:00	不要	一般	
	夜の博物館ドキドキ体験ツアー	8月3日(土)	18:30~19:30 19:30~20:30	要	小学生から一般(各30)	
	文化の森サマーフェスティバル	8月18日(日)	9:30~16:00	不要	小学生から一般	
	標本の名前を調べる会	8月25日(日)	10:00~16:00	不要	小学生から一般	★参照

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

◎企画展の展示解説は企画展観覧料が、部門展示の展示解説は常設展観覧料がそれぞれ必要です(高校生以下は無料)。

★「標本の名前を調べる会」は、植物・動物(昆虫・貝など)・岩石・化石などの標本の名前を調べる会です。希望者は採集標本(1人30点以内)を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込みすることができます。
- ◎行事日の1ヵ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	50 〒□□□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話 088-668-3636)

博物館友の会に入会しませんか!



博物館友の会は、さまざまな活動を通じて自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。2013年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか?

- 年会費 ・個人会員2,000円 ・家族会員3,000円
- 会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- ・友の会の楽しい行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
- ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

◆2013年度行事予定(友の会会員だけの行事です。会員になればどの行事にも自由に参加できます。)

- 5月19日(日) 伊島を歩こう(阿南市伊島)
- 6月9日(日) 深淵の自然観察(東祖谷山村)
- 8月17日(土)-18日(日) 自然体験合宿in室戸(高知県室戸市)
- 10月12日(土) 平家の落人伝説(西祖谷山村)
- 11月16日(土) 化石を探そう(兵庫県淡路島)
- 11月末を予定 1泊研修旅行(近江八幡周辺)
- 1月(日は未定) 七草がゆとおみいさん(博物館実習室)
- 3月(日は未定) 梅見ハイキング(神山町)

くわしくは友の会事務局まで(電話 088-668-3636)